

石神遺跡第4次調査現地説明会資料

川越 俊一

奈良国立文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部 1984年12月1日

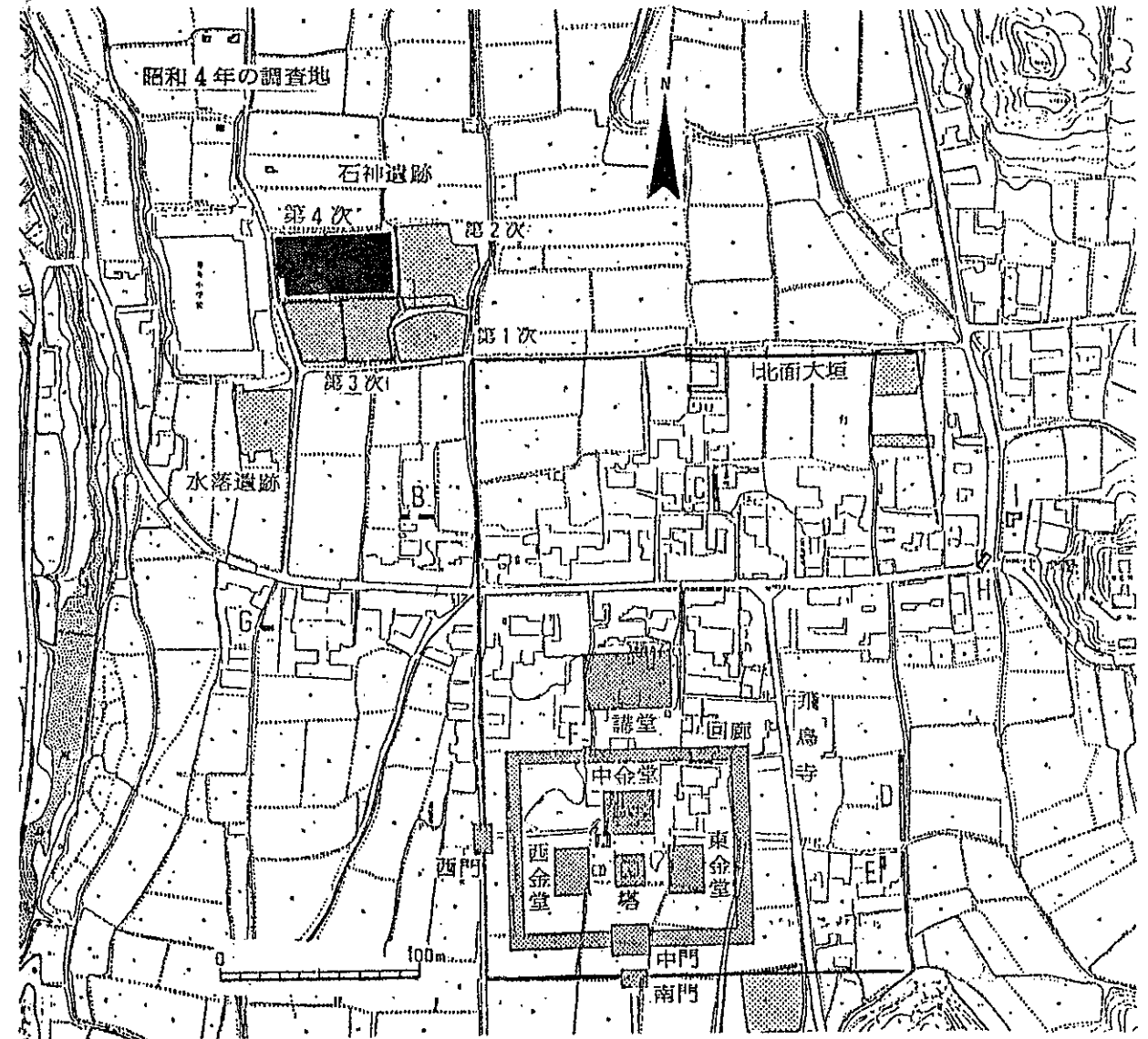
当調査部では、明日香村大字飛鳥字石神にある石神遺跡の第4次発掘調査を昭和59年7月9日から実施している。調査地は第2次調査地の西に接し、第3次調査地の北に接する水田で、調査面積は約1400㎡である。今回の調査は、過去3回の調査で判明した7世紀中頃から藤原宮期に至る遺構の範囲確認と、その実態を明らかにすることを目的として実施した。

◎ 遺構

地山面は北西に向って低くなっており、地表下40～150cmで、7世紀から中世に至る遺構多数を検出した。そのほとんどは7世紀中頃から8世紀始め（藤原宮期）にかけての遺構であるので、今回はこれらの遺構について、その概略を述べる。この時期の遺構は、重複関係、出土遺物、過去3回にわたる調査の成果を参考にすると、大きく3期（Ⅰ期：斉明朝、Ⅱ期：天武朝、Ⅲ期：藤原宮期）にわけられ、表のように整理できる。

Ⅰ期の遺構 建物、塀の柱は抜き取られ、抜取跡はいずれも黄色の山土で埋められる特徴がある。建物Aの外周には、石敷が残り、その範囲は一辺約10.3mと推定される。柱筋からの出は北・東辺が1.6m、西辺が3.2mである。北流する溝のうち、側石は石組溝Bの東側石一石が残るのみで、他は抜き取られている。溝底には玉石を敷きつめているので、その数値から溝幅を復原した。西流する石組溝Cは側石が一段のもので、底石は用いられていない。この溝の北側石列を東方へ延長すると、建物Aの石敷南辺とほぼ一致する。石組遺構は、L字形に側石を垂直に立て、底は玉石が敷かれたものである。現在、調査中であり、その性格については、今後の調査で明らかにしたい。このほかに調査区西半の南辺と中央付近に残る石敷や建物Aの西面石敷の西側に敷きつめられたバラス敷がある。

Ⅱ期の遺構 調査区西半部は黄色土を中心とする山土で整地され、建物、塀の柱掘形は山土で埋め戻される特徴がある。建物Cは、身舎の南から1間目の柱位置に花崗岩の床束が残る。建物Dの柱掘形はⅠ期の石敷を壊して掘られ、Ⅲ期の塀の柱掘形によって壊されている。塀Aは石組溝Aを壊して作られたもので、その南端部はⅢ期の土壌によって壊されているが、さらに南方に続くものと推定される。小鍛冶炉跡は



調査区北よりの西端にあり、赤変した長方形の炉床部のみが残る。このほかに2基の土壌がある。

Ⅲ期の遺構 調査区西半ではⅡ期の整地層の上を炭化物を含む褐色土で整地し、柱掘形は同様の褐色土で埋め戻されている。塀C・Dは直角に曲る一連の塀で、この塀で区画された西北部に建物Fが配される。素掘溝A・Bは約13mの間隔で平行しながら北流する。このほかに土壌多数と上層石敷がある。

◎ 出土遺物

大量の土器をはじめ、瓦、金属製品、石製品がある。土器・土製品ではⅡ期・Ⅲ期の土師器・須恵器が大半を占めるが、ほかに新羅系土器、獣脚硯などの出土が目さ

れる。瓦の出土量は少ないが、7世紀前半代の軒丸瓦が出土している。金属製品は主にⅢ期の整地層や土壌から出土した。そのほとんどは鉄製品で、鎌106点、斧12点、鎌13点、刀子31点、ヤリガンナ2点、釘24点、カスガイ5点がある。多量の鉄製品が出土したことから、周辺に鉄器製作工房、あるいは保管施設などがあったことも想定される。石製品には砥石6点がある。

◎ まとめ

今回の調査によって、石神遺跡については約5000㎡を調査したことになる。

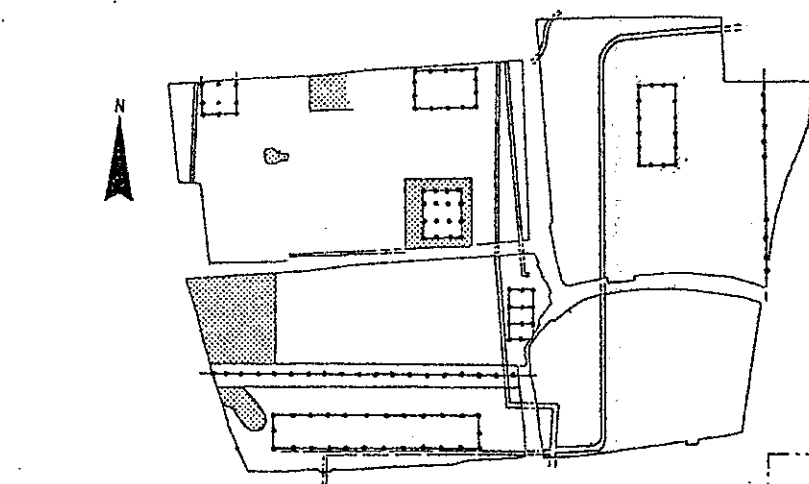
I期とした斉明朝の遺構については、すでに同時代の庭園施設であったことを推定しているが、今回検出した遺構も一連の遺構と考えられる。当調査地の西方および北方に延びる石組溝があるので、その範囲はさらに拡がっているものと推定される。

Ⅱ期になると、I期の建物や石組溝等は壊され、掘立柱塀Aのようにこの地区を区分する施設が新たに作られている。このことは、この地区が、I期とは性格を異にしながら利用されていたことを想定させるが、今回の調査でその性格を明らかにするまでには至っていない。

Ⅲ期の時期については、L字状に区画する塀および掘立柱建物を検出したことにより、藤原宮期におけるこの地区の利用状態を解明する手掛りを得た。

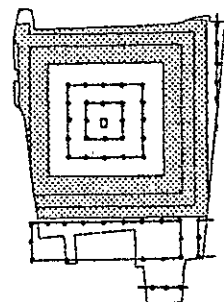
以上のように、石神遺跡は、7世紀中頃から8世紀初めにかけて、性格がやや異なりながらも、連続して利用された遺跡であることが明らかになった。その意義、範囲、実態等についての解明は今後の調査に待つべき点が多い。

時期	種類	方向	規模 (単位m)		備考
I	建物 A	南北棟	3×3間	7.3× 5.6	総柱・石敷
	建物 B	東西棟	4×3間	9.4× 6.0	
	建物 E	南北棟?	2×2間	5.1× 4.8	総柱?
	塀 B	南北塀	4間以上	8.8	
	塀 E	南北塀	6間以上	11.8	
	石組溝 A	南北		幅 0.7	底石なし
	石組溝 B	南北		幅 0.76 深さ 0.4	
	石組溝 C	東西		幅 0.86 深さ 0.2	
	石組溝 D	南北		幅 0.53	
	石組遺構			西辺 5.5 南辺 6.5 深さ 0.5	
Ⅱ	建物 C	南北棟	3×3間	7.2× 5.5	東廂・床束
	建物 D	南北棟	7×2間	16.4× 4.8	
	塀 A	南北塀	12間以上	19.5以上	
	小鍛冶炉			0.46 × 0.55	
Ⅲ	建物 F	南北棟	3×3間	6× 4.9	総柱
	塀 C	南北塀	5間以上	12以上	
	塀 D	東西塀	8間以上	19.2以上	
	素掘溝 A	南北		幅 3 深さ 0.4	
	素掘溝 B	南北		幅 3 深さ 0.4	

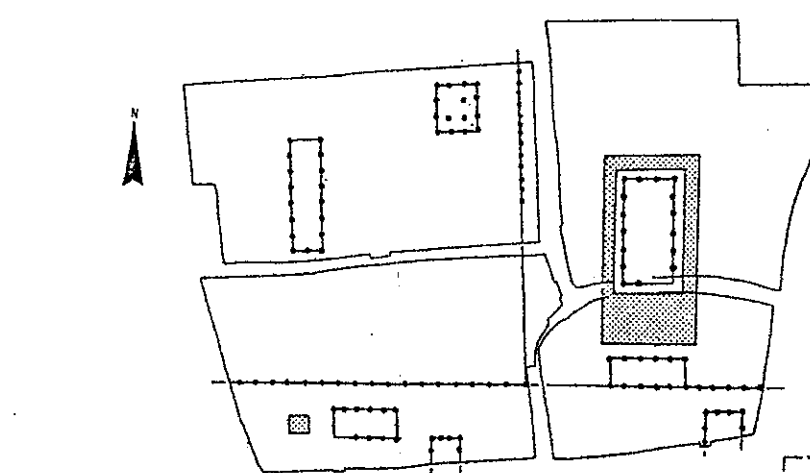
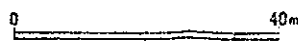


石神遺跡

第 I 期の遺構

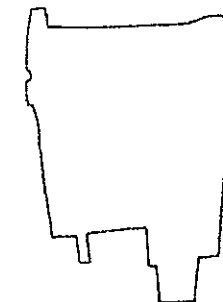


水落遺跡



石神遺跡

第 II 期の遺構



水落遺跡



飛鳥寺寺域

飛鳥寺寺域

石神遺跡第4次調査遺構略図

